

# 自分のやり方を信じること



取得した資格：1級土木施工管理技士  
資格取得年度：令和2年度

なか むら ゆう き  
中 村 友 樹\*

### 受験の動機・経緯

土木技術職員として採用され、土木部下水道課の維持管理係に配属となり、下水道施設の維持・修繕を行ってきました。

長岡市の下水道の歴史は古く、全国でも早い大正13年から整備に着手しています。また、11の市町村合併により広域となり、下水道施設が増えたこともあったため、下水道の維持管理の仕事についていくのが精一杯でした。

しかし、年数を重ねていくうちに、下水道施設の位置や健全度状態の判断や不具合への対応、土木職員としての監督業務、その他の公務員としての業務に対する取組み方が徐々に身に付いてきました。

その時の上司から、「1級土木を受験したら？」「まわりの職員よりも早く取ったほうがいいよ！」と期待を込めて言っていただくようになりました。しかし、まだ仕事に余裕がなく、土木の知識や経験も少ないから無理だろうと決めつけ、いつか取ればいいやという気持ちで過ごしていました。

その頃から、同年代の職員が合格したという話を聞くようになり、自分も負けていけないという気持ちが芽生え始めました。ただ、このときは3年後くらいにまでに取得できているといいなと考えたり、受かったら誰に報告しようなど、受験を決めたことに満足している状態でした。

### 学科試験における留意点や学習のポイント

まず、合格した先輩職員にテキストをもらうことから始めました。一から始めようと思い、過去問の要点を説明してくれるテキストからやると決めました。家でそのテキストを開きノートに要点を書き、暗記していく方法を取りました。しかし、1冊終えたところでまったく頭の中に入りませんでした。この頃は、文字を書くという習慣が減っており、このままでは絶対に覚えられないと思い、書いて覚えるという方法をやめてみました。

次に、過去5年分の過去問が掲載されているシンプルなテキストに手を付けました。とにかく読んで回答のみをチェックし、それを自己採点するという方法を取りました。しかし、効率が悪く、もっと簡単に採点できたり、間違った問題のみを記録することができないかなと考えました。このころ、本を開くのが億劫で勉強に着手するまで時間がかかるということに気が付きました。

その時、スマートフォンのアプリがあるのではないかと思い、検索すると見事にヒットし、試しにやってみると、自分の思い描いたようなやり方でできるものでした。年度別や分野別に回答でき、間違えた問題を何回も復習でき、正答率を計算してくれるものでした。これにハマり、ゲーム感覚で一日30分程度やるという習慣が身に付きました。

\*長岡市 土木部 地域建設課 主任

## 実地試験における留意点や学習のポイント

これも、先輩のテキストを参考に始めてみましたが、学科試験での教訓から、「勉強方法は人それぞれ」と思い出し、自分なりの勉強方法があるのではないかと考えました。

しかし、この実地試験の問題は、経験記述や現場をイメージして回答するものなど、それぞれの現場状況で求められる基準か管理項目を判断し、正しく記述しなければなりません。そのため、アプリによるものは見つけられず、書店で他の本を探しても手元にあるテキスト以上のものは見つけられませんでした。

これまでスマートフォンに頼り切っていたので、なんとかこれで勉強できないかと思い、テキストのページを写真に撮って、それを通勤時間に見ながら頭の中で回答することにしました。これにより、勉強への着手を早め、集中することができました。

経験記述の論文への対策としては、とにかく書いてみて、書き上げたあと、資格を持っている方から、添削してもらうことにしました。

この論文については、自由に書こうと思っていましたが、添削して頂くことで、問われてる内容に対し、的確に課題を捉え、どの様に解決、対策を図る必要があるか記述しなければいけないことに気付き、学科試験や実地試験の勉強から学んできた管理項目や基準値等について、具体的な方法や数値を示して記述することに心掛けました。また、論文にする現場の選定では、苦労したエピソードのある現場がよいと思い、思い入れのある現場で落ちたらしょうがないという気持ちで書きました。

このときにノートに書いて覚えるのに限界があったので、ワードを使用し、文字数を整えながら作成し、その本文をスマートフォンに送り、空き時間に見るというやり方で覚えました。

## 受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

当時、私には妻と3歳の子供がいました。また、妻が2人目を妊娠中でした。しばらくは、育児に追われるため、今年のチャレンジで絶対に合格するとプレッシャーをかけました。また、当時は下水道課に5年在籍となることから、もし異動となった場合は慣れるまで勉強時間の確保が難しくなり、受験するのはもっと大変になると思い、必ず合格すると決心しました。

しかし、いつでも勉強できるわけではありません。仕事の緊急対応で出勤となったり、子供が熱を出す日もあります。私は、完全に割り切って通勤のバスの中で20~30分試験問題を解くということを習慣づけることにしました。これによって、色々なことに左右されず、集中して勉強することができました。

1級土木は、日頃の業務の延長線であり、勉強をとおして確実に技術や知識を身に付けることで、取得できる資格であることがわかりました。身に付けた技術力は日頃の業務の中に活かすことができ、発注者、受注者間の共有も行きやすくなりました。このため、ぜひ若手職員には自己研鑽の1つの機会として、1級土木の取得を目指していただきたいです。

また、この受験をきっかけに他の資格試験を受験したいと思うようになりした。国家資格であれば技術士（建設部門）を受験したいと思っています。これらの受験をきっかけとして幅広い土木技術の知識を身に付け、今後の業務に活かしていきたいです。

最後に、勉強方法や勉強時間、合格までの期間など人それぞれです。最初はやる気がおきず、なにもわからない資格試験の勉強もすらすら回答できると楽しくなってきます。資格取得を目指している方は、難しいことを考えずにまずは動いてみて、自分に合った勉強方法を探しながらチャレンジしてみてください。

【著者紹介】 中村 友樹（なかむら ゆうき）

長岡技術科学大学大学院建設工学専攻を卒業。平成28年長岡市入庁（土木職）。土木部下水道課で下水道の維持・修繕などの職務を経て現職。